

第 15 回精華町環境推進委員会 会議録 要旨

会議の名称		第 15 回 精華町環境推進委員会
開催日時		平成 29 年 (2017 年) 10 月 26 日(木) 14 時～15 時 30 分
開催場所		精華町役場 2 階 201 会議室
出席者	メンバー	上甫木委員 (委員長)、前田委員 (副委員長)、畑中委員、廣瀬委員、森田委員、中村委員、牟田委員
	事務局	精華町 健康福祉環境部 岩前部長 精華町 健康福祉環境部 環境推進課 澤田課長、藤原係長
欠席者		井澤委員
議 題		議事 ① 精華町の環境 (平成 28 年度分) (案) について ② その他 ・今年度の精華町環境推進委員会開催等のスケジュールについて
資 料		資 料① 精華町の環境 (平成 28 年度分) (案) 資 料② 平成 29 年度スケジュール (予定) 資 料③ 第 15 回精華町環境推進委員会名簿 参考資料① 第 14 回精華町環境推進委員会議事録 要旨 参考資料② 精華町の環境 (平成 27 年度分) (平成 29 年 3 月発行)
傍 聴 者		なし

1. 開会

○委員交代について

○事務局体制について

○健康福祉環境部長あいさつ

2. 議事

① 精華町の環境（平成 28 年度分）（案）について

上甫木委員長：それでは、次第に沿って進めていきたいと思ひます。事務局からの説明を受けたいと思ひます。

事務局：資料①について説明させていただきます。

○資料説明

上甫木委員長：本件について、ご意見を伺ひます。これからのご発言、ご指摘は本日の配布資料①の p.9 評価の部分に反映されますので、よろしくお願ひします。

牟田委員：参考までに教えていただきたいが、太陽光発電及び蓄電池の補助した件数等、どのような内容か。

事務局：14 件申請があり、約 550 万円補助を行った。京都府の補助と併せて補助限度は太陽光が 4kw、蓄電池で 6kwh を上限としている。最高で 42 万円までの補助となる。

上甫木委員長：再生可能エネルギーについては、その他の補助を行っているのか。

事務局：現在は太陽光発電と蓄電池の同時設置の補助のみである。停電時にも蓄電した電力を使用することができ、災害時にも対応できるもので京都府と連携して補助を行っている。

畑中委員：3 点の質問がある。1 点目は不法投棄が減少している要因についてどのように考えておられるか。また、2 点目は庁舎の電力使用量増加の要因について。3 点目は前回年次報告に掲載のたけのこすめ（※）についてはその後どのような状況か。

事務局：不法投棄については、毎年 10～15 件程度が発生しており、直営で収集しているので、監視も収集時に行っており、増えてはいない。庁舎の電力使用量については、平成 28 年度は、寒暖の差が激しかったため電気の使用量が増えた。たけのこすめについては、あまり販売量の多い商品ではないと所管課から聞い

ている。

牟田委員：廃食用油は回収した後で何に使用しているのか。

事務局：平成 29 年度は、バイオディーゼル車等に活用していただいている。

牟田委員：将来的に精華町でもバイオディーゼル車を導入する予定はあるのか。

事務局：特に予定はしていない。

前田副委員長：菜の花プロジェクトの視察に行つて、廃食用油からバイオディーゼル車に活用する際の困難さについて聞いた。廃食用油から手間暇をかけて行うことに意味があるのか、見直す必要があると聞いた。自動車のエンジンにあまりよくないと聞いた。

事務局：車以外の可能性についても模索されているとお聞きした。町としては、そのまま捨てるのではなく、「資源化できるものは資源化を」を基本に、回収した廃食用油を業者に、現状は販売している。

牟田委員：安定供給や技術の課題はあるが、先行きが暗いとは聞いていない。今後の課題のひとつではないか。

森田委員：今では、中国もヨーロッパもディーゼルエンジンの生産廃止と聞いているので、車での展望は時代に合っていないのではないか。

畑中委員：現在は使い道としてはボイラー系で使うことが考えられている。農業用のハウスボイラーなど。

事務局：競争入札により業者に、買い取ってもらった額を、ごみ減量化の施策に回すなど環境行政に活かしている。

畑中委員：きっちり事業展開されているので、事業としては意味がある。

上甫木委員長：食品ロスについてのアンケートについて、前回話題になっていたが、その後どのようなになっているのか。

前田副委員長：環境ネットワーク会議では、せいか祭りで食品ロスについて、若い方を中心に普及啓発を目的にアンケートを行った。ごみの削減に 20 年ほど取り組んでいる方がおられるので、今年度は水切りや生ごみを減らすことを目的に設問を考え、バージョンアップしたアンケートを、と考えている。平成 28 年度のアンケート結果は華創に掲載しているが、その後、住民の間でどのように活用されているかは不明である。

上甫木委員長：p. 10 の写真をせいか祭りで掲示してはどうか。食品ロスの問題点が一目瞭然にみなさんに伝わるのではないか。

前田副委員長：私は田畑が周りにある環境で育ってきたため、以前は野菜を畑に捨てていたが、旧村でも課題である。

事務局：12 月中旬ごろに次の組成調査に入る予定である。その後の状況については、委員会でも報告していきたい。

森田委員：生ごみ処理機の助成金をもっと出してはどうか。生ごみ処理機によって、堆肥化されたものが肥料に使える。

事務局：現在は、購入額の2分の1の補助を上限2万円で行っている。

上甫木委員：せいか祭りの出展で生ごみ処理機に関するものはあるのか。

前田副委員長：生ごみ処理機で堆肥化されたものは、田舎だと畑で使えるが、出口を考えておかないといけない。ただ単に生ごみ処理機の補助金をばらまいても意味がない。

牟田委員：精華町では現在、ごみが無償であることが、将来的には、有償化について課題となってくる。

事務局：本日の配布資料で食品ロスの実践編についての啓発チラシをお配りしている。地域活動されている食生活改善推進員協議会の事業の「男の料理教室」などでも活用していただく予定である。平成30年度では、組成調査の結果が平成29年度末に出て来るので、それらも併せて普及啓発に取り組んで行きたい。

中村委員：高齢者は文字を読んで理解するというのは煩わしくなってくる。特に旧村の高齢化世帯では理解しにくい。文章をもっと平たく書いてほしい。特に高齢化してくると、回覧をまわしても伝わっていないことを痛感している。チラシや文章以外での伝える方法も考えた方が良くと思う。

前田副委員長：このチラシはどこに置くのか。

事務局：地域団体に協力を求めるとともに役場や公共施設で配架していく。

前田副委員長：地域の取り組みと連携すると、もっと住民に伝える方法が広がるのではないか。

中村委員：例えば、実際に水切りのグッズを配布し、住民も体験したら興味がわいてくるなど工夫がいる。

前田副委員長：生ごみの重量の約8割が水分であることがポイントである。

森田委員：行政が生ごみを安くても買い取ったら、逆に処理費の削減ができるのではないか。

牟田委員：木津川市と精華町、同じ焼却施設を使用している地域内で無料、有料の所があるのも不自然な状況ではあるが、特に市町界に隣接している地区では、ごみステーションに廃棄されないように警戒する必要があるのではないか。

事務局：木津川市とも十分協議して進めて行きたい。

上甫木委員長：確かに高齢者は文字が多くあると、自分で読むのが煩わしくなるため、伝え方の工夫をすれば、色々な方にも伝わっていくのではないか。

森田委員：生ごみの8割が水分であることを伝えるだけでも減っていくのではないか。

前田副委員長：環境ネットワーク会議でごみ部会があるが、昨年より、子ども服の交換会を開始し、大変好評である。

精華町では大きな祭りが年に3回あるが、せいか祭り以外の2つの祭りにプラスして、KICKで開催された子育て支援フェスタで服を集め、交換券を渡し、せいか祭りで交換してもらおう。子ども服を置いていただく場所を確保してもらった。今年のせいか祭りでもブースの半分を交換会に使用する予定である。

また、近年、柿渋を使った用品が見直され、注目されており、先日、柿渋をテーマに講演会を行った。せいか祭りで、展示を予定している。

上甫木委員長：柿渋の話や子ども服の交換会など、地域団体の取り組みの動きも年次報告書に入れて行っても良いのではないかと。

前田副委員長：確かに環境ネットワーク会議の活動を紹介するのは良いと思う。せいか祭りは賑わいの場所なので、若い親子が多いため、啓発による波及も大きいのではないかと。

廣瀬委員：一番気になるのは、他所から来て、府道にごみを捨てる方がいる。確信犯で一番ごみが多い。のぼり旗などで「精華町はごみの無いまちです」など啓発してはどうか。

事務局：投棄されるごみの中身は何か。

前田副委員長：缶や弁当がらなど。特に場所は府道・奈良精華線である。

森田委員：バス停に手つかずのパンなど置かれていることがある。不法投棄以外の問題に発展する可能性もあるため、廣瀬委員からの、のぼり旗は良いアイデアであると思う。

中村委員：初めて本委員会に出席させていただいたが、多くの課が関係しており、事業の推進状況におどろいている。

上甫木委員長：今後も生活者としてご意見を是非お願いします。

② その他

○今年度の精華町環境推進委員会開催等のスケジュールについて

○資料説明

中村委員： 次回のプラットホームは11月6日で決定ですか。

事務局：はい。また、次回の委員会開催予定として、2月に新クリーンセンターを見ていただき、併せて木津川市山城町にある中間処理施設も見いただけると良いのではないかと。

廣瀬委員：本格稼働はいつ頃からか。

事務局：来年の10月頃からと聞いている。

廣瀬委員：新クリーンセンター用に橋が架かると聞いている。

事務局：新クリーンセンター用ではなく、新興住宅地と163号線を結ぶ道路として整備される。

上甫木委員長：その他、何かありますか。

前田副委員長：環境ネットワーク会議の会長ということで参加させていただいていたが、次回から出席する者が変更となります。長い間お世話になり、ありがとうございます。

いました。

3. 閉会

(以上)